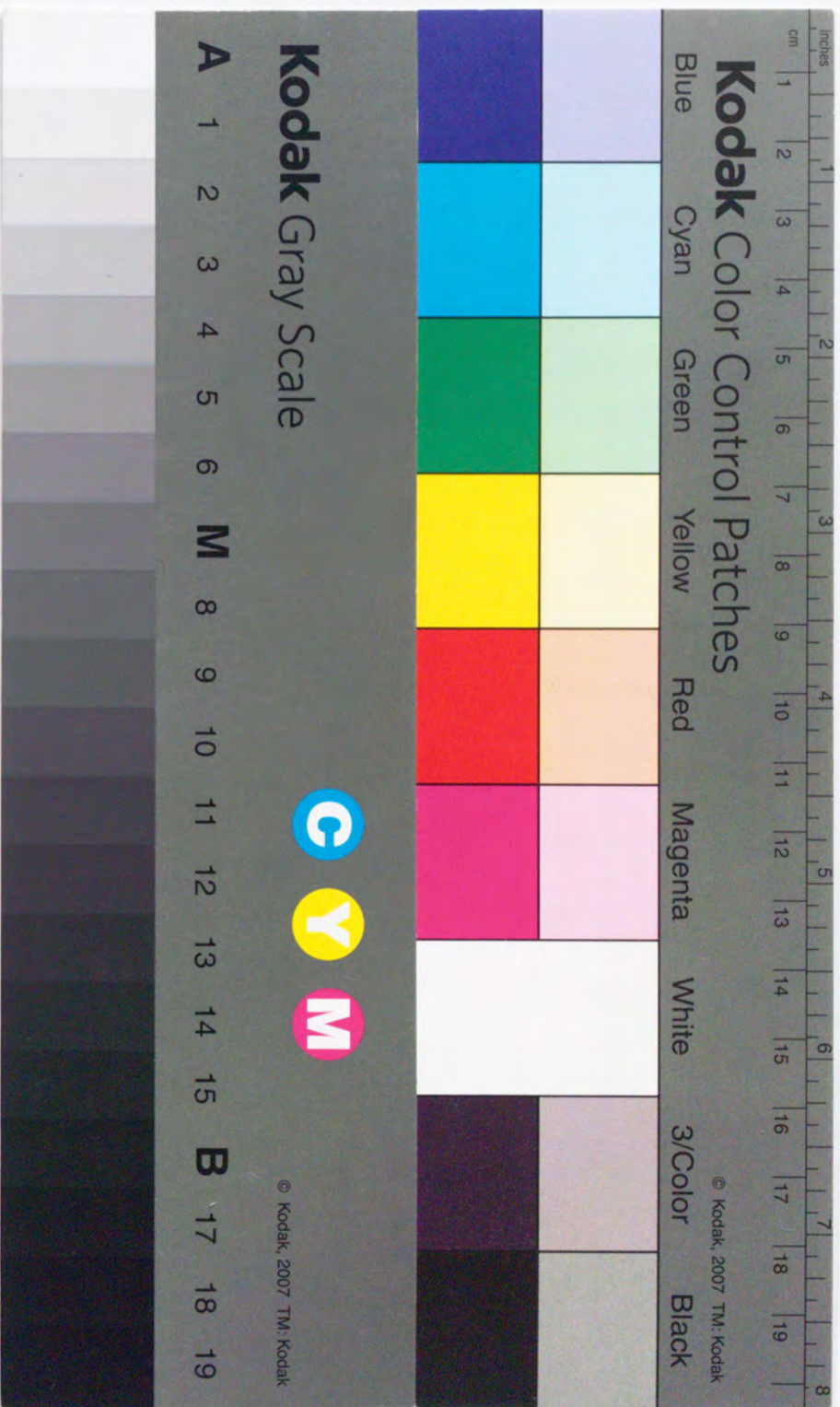




戲場樂屋圖會下卷

目録

二重り釣看板圖

内柔屋

初午芝居

床山

嚢子方

廻り道具ろく後捲圖

立役初家

當振露圖

大木戸 中木戸 島屋番

上被敷後

樂屋口 芝居裏

道具方

早替り

人をせり上る馬 せり上道具

女形初家

役者京中地親正寫 役者京中自筆短冊

東 下被敷後

樂屋番 湯浴

小道具方

舞臺下

嚢子方初家

書才

後者^{さき}中^{ちゆう}け^ける^る乃^{すなは}具^ぐ其^{その}意^い

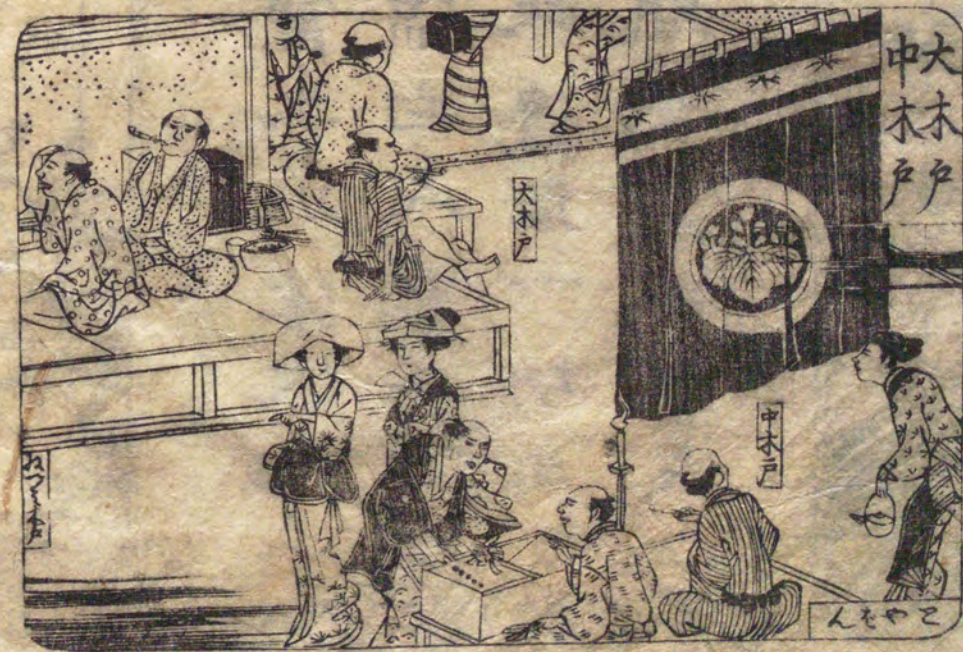
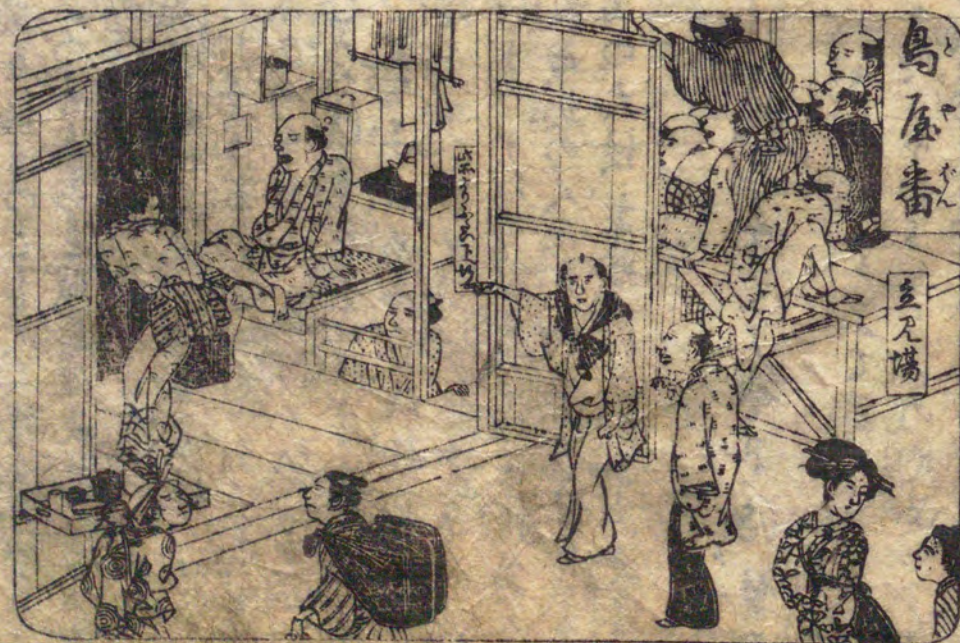
振^ふり附^り

一^{いち}夜^や附^り

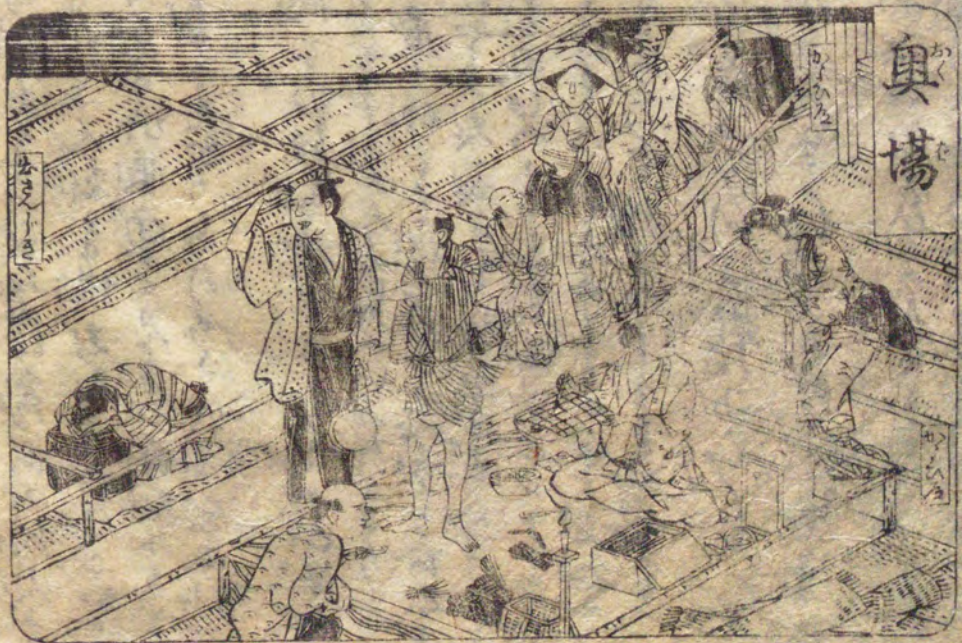
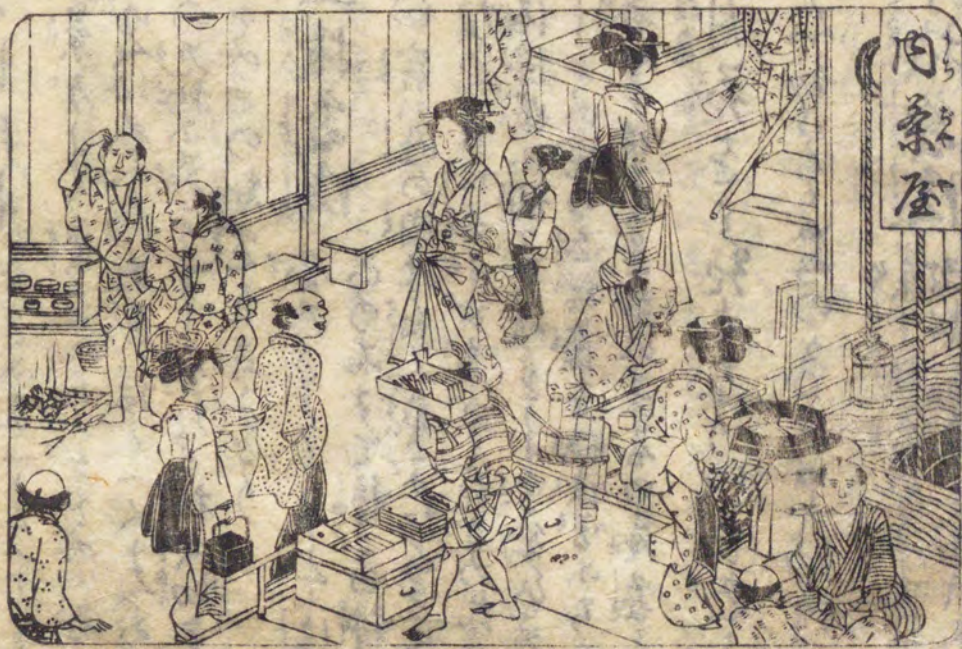
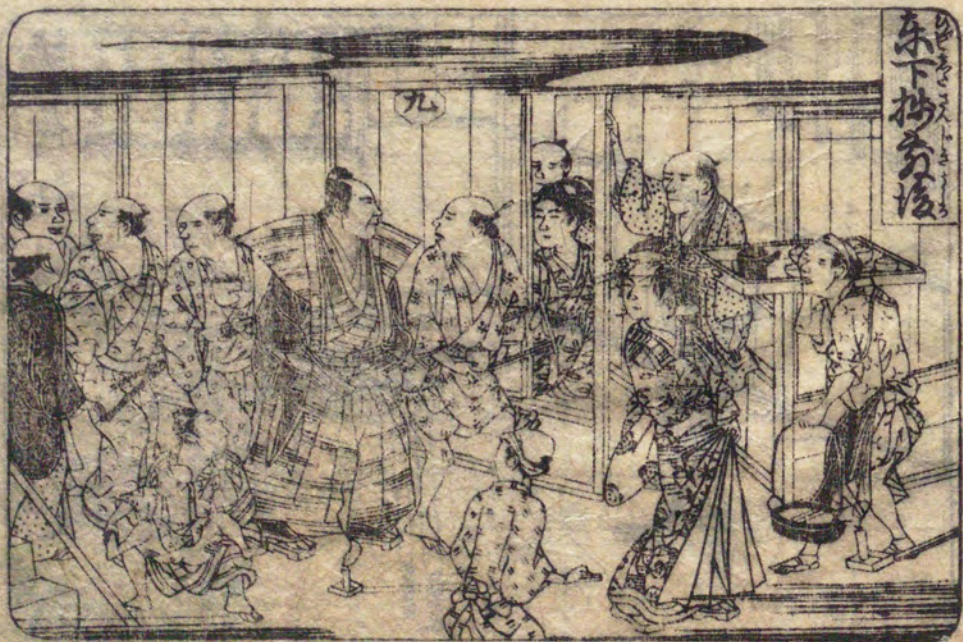
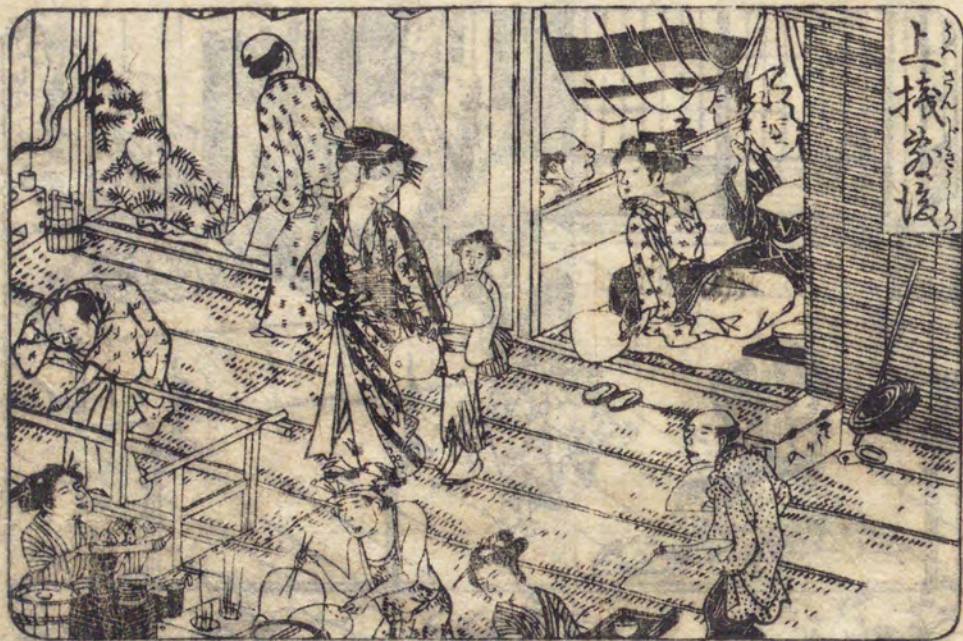
根本^{こんぽん}圖^ず 其^{その}通^{つう}言^{ごん}記^き

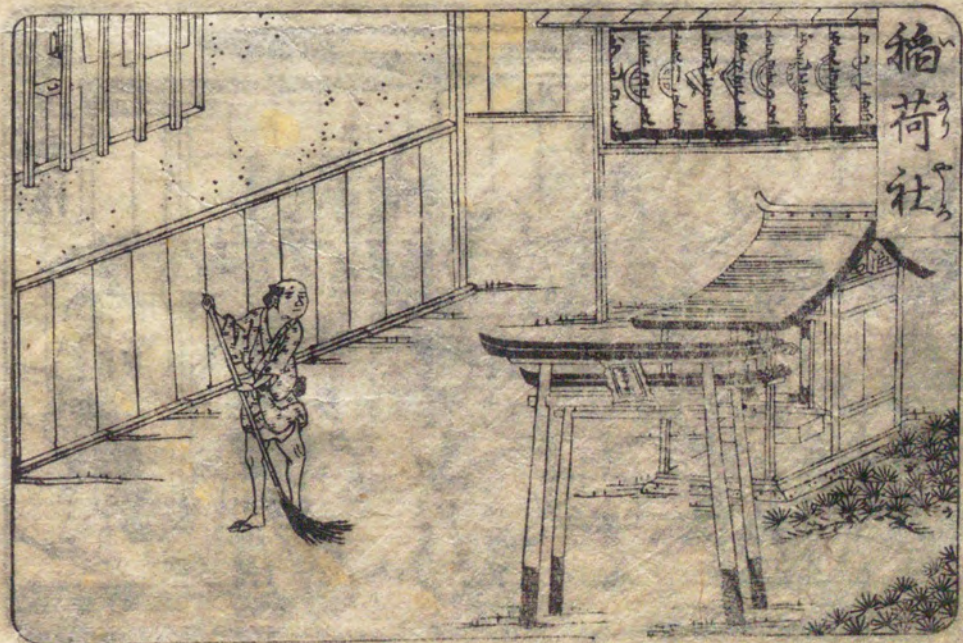
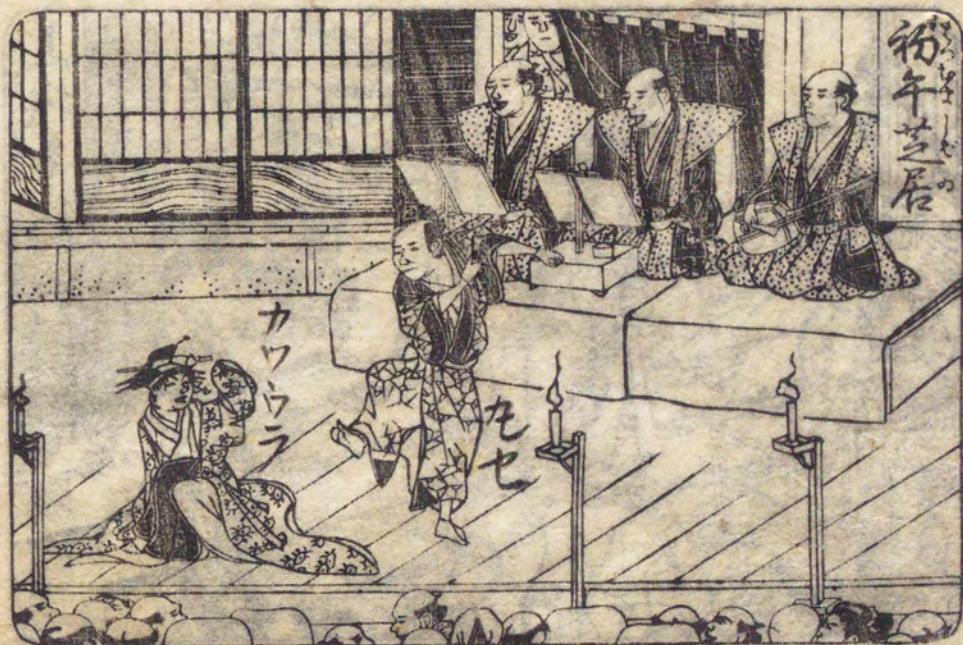
富士山雪解富士川落大
浮我名河竹流白人藝子如
雲巡大人腰此邊者一切高
價就中高低間足高山爭先





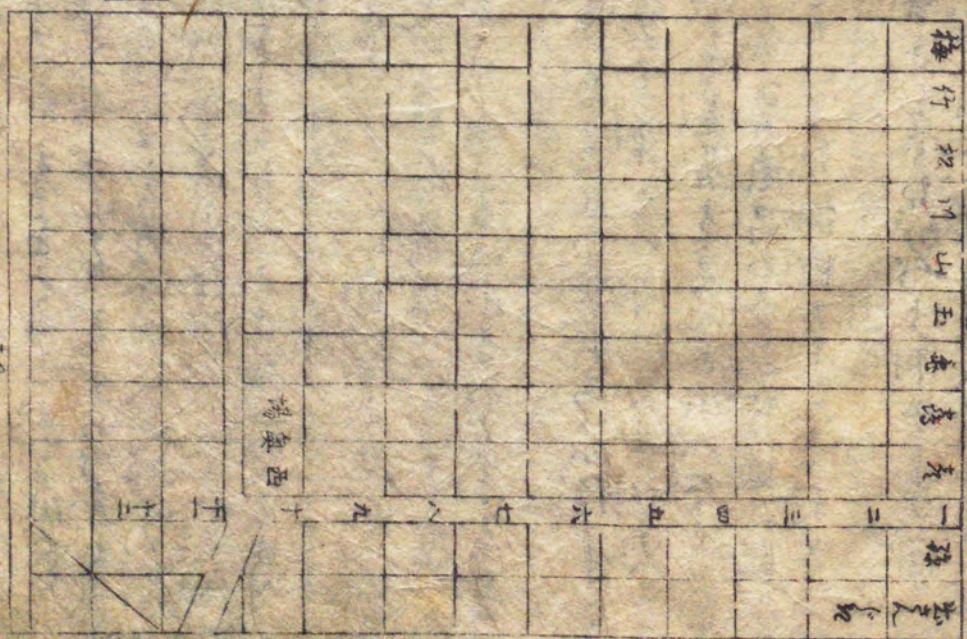
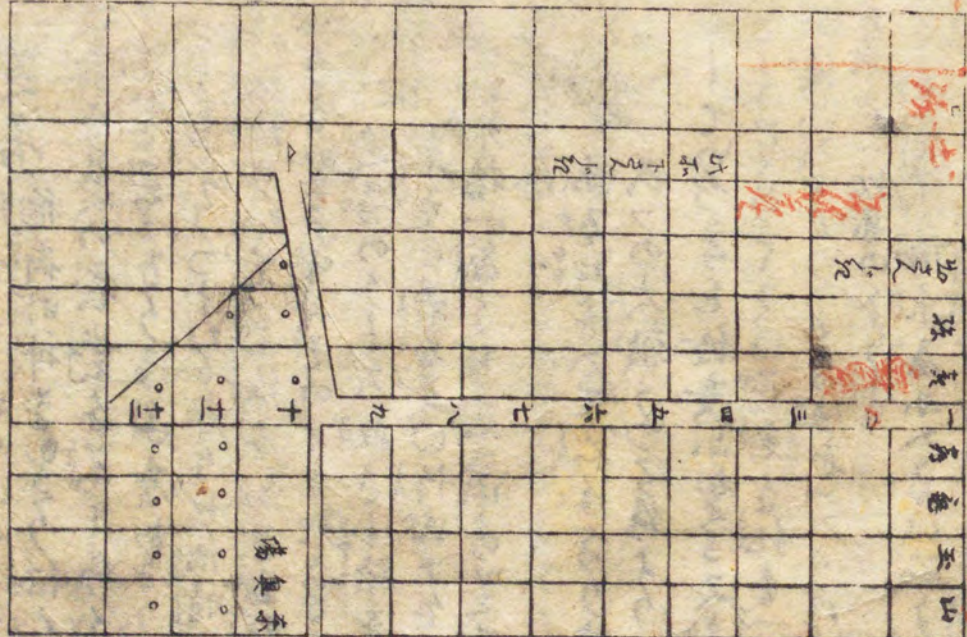
わが我通とて花屋の下をどけり来屋ふりて





東西奥場圖之寫

東の場
西の場
奥の場
上の場
下の場
左の場
右の場
奥の場
上の場
下の場
左の場
右の場



例年二月初の午の日あり登の程云ありてより芝居守禮の
編前神をめぐり征大勢つて前座をもつゝふりて一巻

乃後者そ後の衣裳を恙し時子度をうつみなり表方のづまもこの日
より越へを恙るなり時子度おもうてたけ狂玄あり是は後者の重なり或
表方うちよりつとむるなり世話時代道りあふめと知ふなりては主物の後
者洋珍瓏をひより二線をひき出づるをすむなりこそ紙えんとせんよ
新づりをひきあふそのよう知あるのみいふんが

芝居しげのうしろ細こい小路こうじを芝居裏しげうらへふ千日せんじつ入いによう東あづまへ○角かく○
角かく丸まる○若わ老らう主しゅ○竹たけ田で中ちゆうをあきり出でる○後ご○中ちゆうの芝居しげの示し屋や

比類須指一紙うち東へ中の芝居をそりあるけしを入る。床屋番。風

六ツの大轍おほてうつて後のちよりも先さき出でるる柔なその外ほか風ふう呂ろを焚くわ火ひをして

おこしていつまでも夜夜ふあつ又雲嶺うと芝居を見んとひ入より入るを
をてふとめくその最悪を礼を一切の蒙り居るにまお中廻小僧のつを
をひ湯小入るといふとも女取のへらぐしてちいさな綱監をふて夜夜湯を
もてふ一切蒙のふて

中通ちゆうとう小佐こさ乐ら屋や入いととけけ下かりて髪かみををととれた。ゆゆ下かふふ又また宿しゆくふふととりて髪かみ月つき代しろををととるるより五ご物ぶつハハ名なの金きん割わり何なんゆゆ不ふ定ぢやうりて活くわくりて

下六

芝居衣裳を爲す役者傭中へ此より衣裳を出入り申通

むか。主役女ごをさると我々といひ芝居より我輩をふたこと我輩定場の
夜素といふ○おぬぐひ○すぐま○かゝるゝ○死中○然るにいふとを
水城ものといふなり

乃具^いつてい幕^{まく}の召^{めい}馬^ばのごとくふしと勢^{いき}くせろる意^い死^しめ之^{これ}せり上^{うへ}
の召^{めい}人^{ひと}衆^{しゆ}たるすもて恨^{うら}みて控^{かま}えり金^{かね}門^{かど}の三^{さん}洞^{どう}南^{なん}門^{もん}

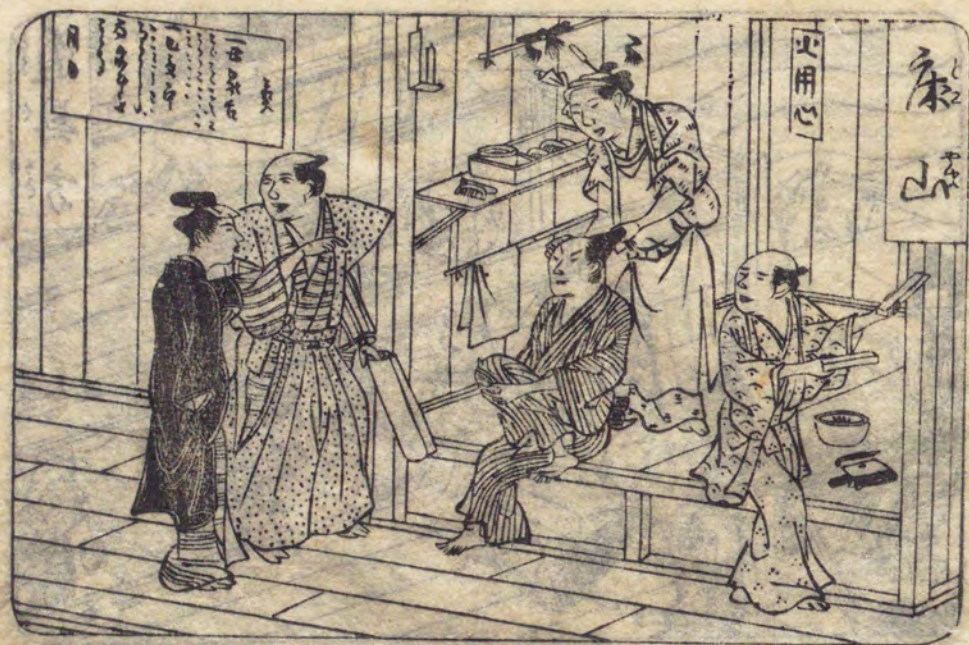
トの腰より又着意よりまずに時居をさうさう引よるもありさうさう
押さうと岩窟の腰掛あり谷の腰ふあり全園寺云々のせう上せう下
の大道具へ上りやうと促して下さうせうさうと二重ハ腰く入子
ふさるやうに具へ着意をさうさう引よるもありさうさう時居をさうさう
着意のやうに腰をつさうとさうさうとさうさうとさうさうとさうさうと

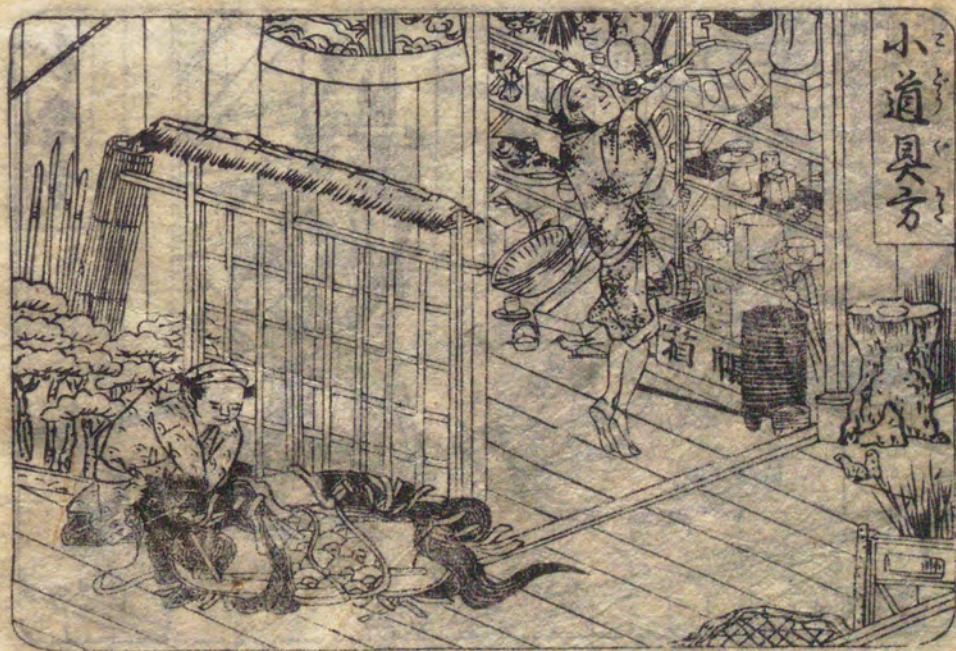
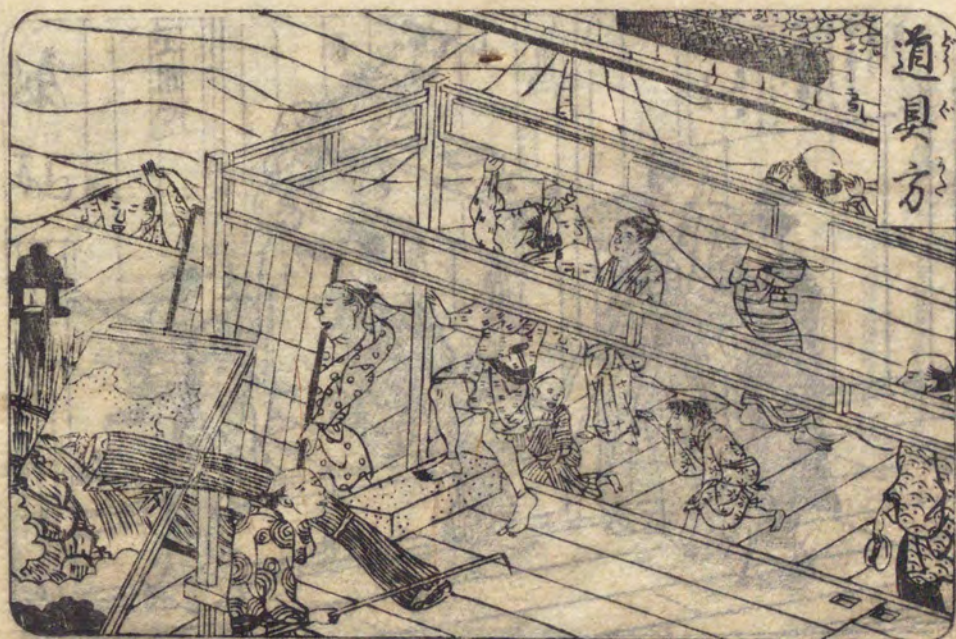
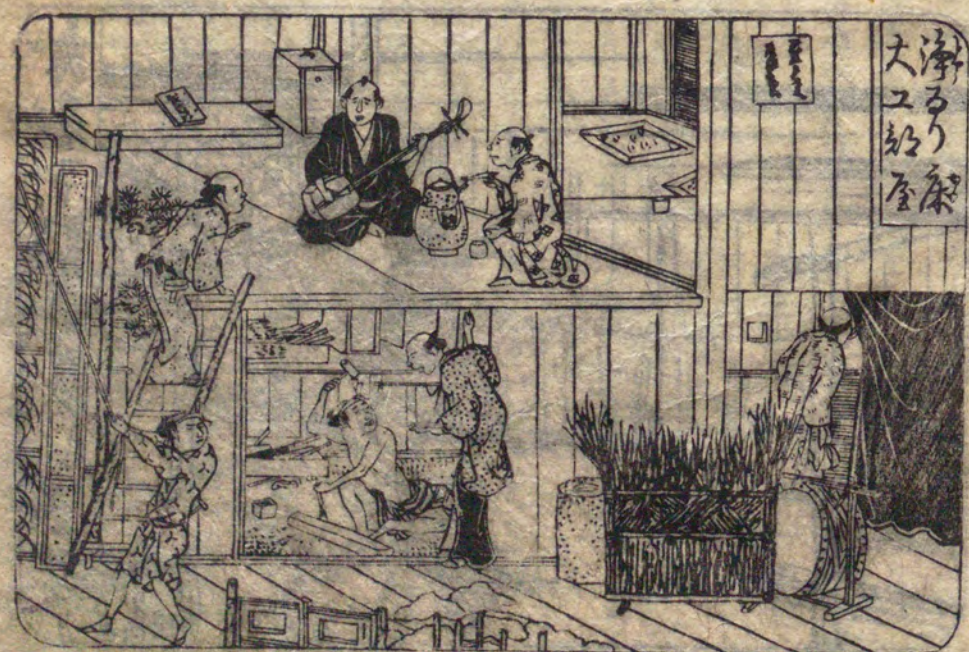
○ 刀脇差 鎗 鉄炮

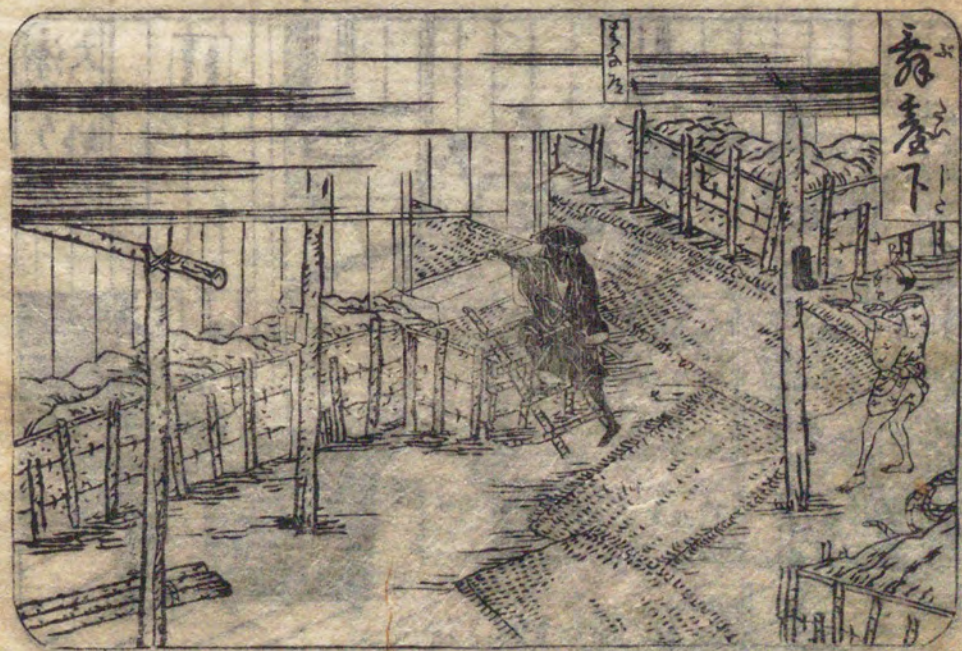
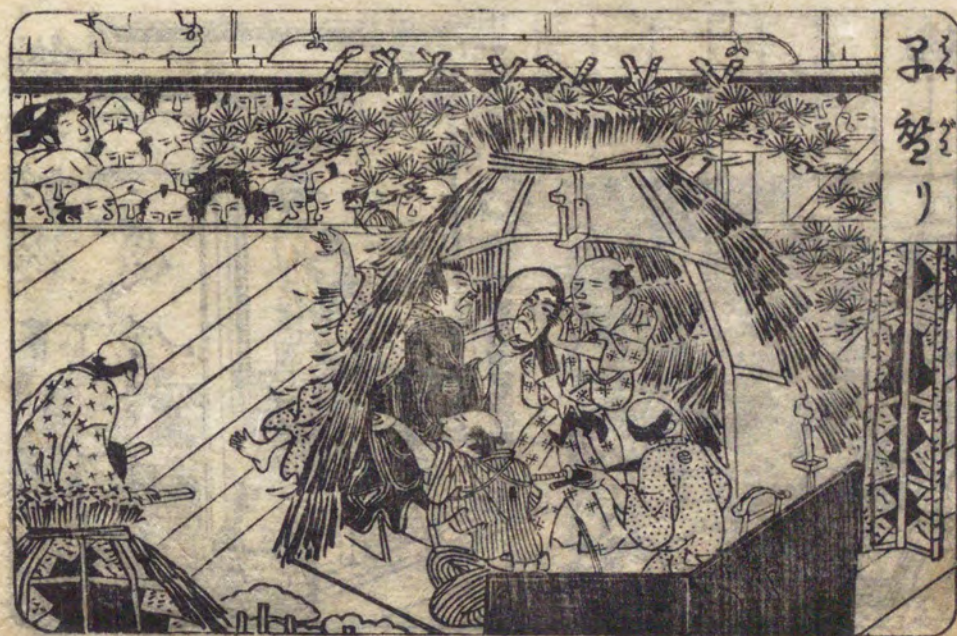
ちよき宛あひを何多紙し摺すりをさ
ま摺すりふりてをさす太の紙し摺すりふ
あを

くわが
首桶
さんざう
三方
ふんしやう
わけ燭燐
こまのろせきうちさね火入小火
成るまでよく煮えたるをいれけり

一云のちさね屋をけりてふ
入道あきのちさね屋をけりてふ







子方

翁を在りて懐病にても一切の事を
なす。終家ハ中通親終家由はるゝと

げあ

るふ^ふの時^{とき}或^{ある}の

後刻市を以てせうたゝとて死めりやとふ合せとていふ。あとの
役者出でつゝ死ふくけりうゝとて。此の如きとてふりやうに
同出度難子 ことへ勅使餐意 淨難子 全門南淨ち さき死 榮辱場
一寸さねはやゝの如ワイく ワイトサ 白難子 幕阿あうそ やつて二三人の桶やうに
ワイトサ。そゝをさきききまう をりち掃除の時 靴大と云縁を難く
さゝぬとぬめりや い外難子多しとてとも

淨瑠璃床

病者の死に病口の両方ありと云ふと、大工小僧なりこの
心よりよりけし、乙城うけ星を舞うて、淨瑠璃の床ふりし
切馬のごとく

公家武家と云ふことにて之を分るる大工障子此世に縁をふり

早智はやち
り

ぬ多しとくとも 伴賀越の狂言沢井又み扇の子
 警へハねたうし
 けりき思ふ出せり づゑむすの内田警若くハみして
 ぬすか言程扇で

いふに
相引を繞るゝて下に掘をくくくその掘ふあゝぬいふに
をきり衣帯の仕つけに紐密あゝゆゝあゝのせに

新巻下をあらうとふ^まふつとほろーあゝお煙火をしてるというある

を多く入に霧春のし 糸屋口のかささうよりちてて残るけることより花
屋の霧のうら残る屋といふは雨うもけてをうけるん ○かき井戸より曲者
づうと花のふくけててをのりて霧春ふづる又かきあり。かうきいの
さうと花の屋すといふ霧春の切宛をうらう人のも残るのふく人二人あ
かきちうすといふ大さの霧のふく ○大勢せり上のと花のうら残るをうら
子ちうの時にかきをうら糸屋のちててをうらうて霧春の屋をうらふ切宛
をうらう思ふより霧春を親をうら衣業を思ふ人をもて出るん

之抄の記感いたゞみ六七巻にて入口ふのうきえとあり
 又省書抄神極巻のいづゝとあるところ貸産

ぬののごとくありきまじくも一場二場役ありとさへおのく我をふり
 たりせの人さへあらずで休息せよとんあううに候のたまはたとあんう
 せとあがり月ひやううそ小笠もも寝どりある所のふれ皮

芝居うゝ来屋より入る来屋義風呂場を過る来屋衣笠

なり、穀子方給、表へは心おしのはし、あゝ、産するすゝに、乳をのび、衆と、衆のさし
一版、さし、して、は、衆、さう、徳、する、の、さ、し、衆、を、さる、ゆゑ、衆、中、の、さ、し、衆、と、い、ふ
本、よ、し、衆、さ、し、は、衆、さう、あり、は、衆、衆、さう、あゝ、衆、さう、わう、一切、の、衆、人、さ、し、

下十

何ゆゑに曰ふ所の相俵りをさすの^ハ本を以ていふは世間成足なり第一
釋言をつひねるゝの氣をかりてみそ日をくはうとくして年月を過ぐ
和莊き衆が海よりくる不老不死の妙こそこの流弊よおあふふ多難とゆるすべし

之役於家のごとくふまゝと其の有りさふ大名の妻女ども

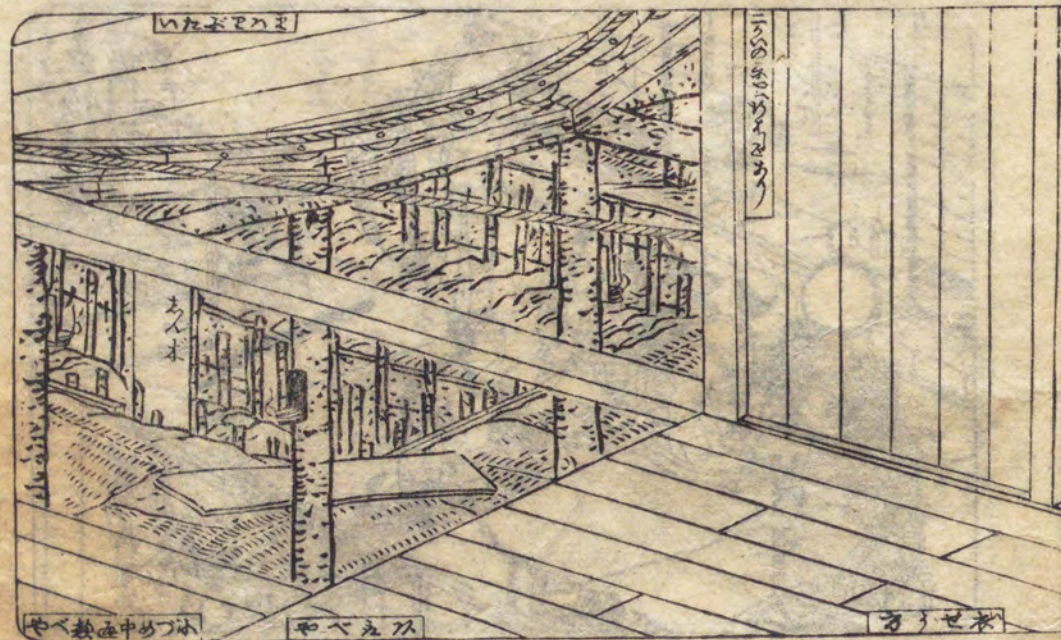
ち梨地ふふ前夜常夜を解る庵切の力みち袋小麻のすね留でさね不海
 するくをふふ小町べに揚き抱べにとやんう今夜志の名をわけていろはべに
 由男あふといひもやれといろに色よねをきぬゆえんう巨燈え後りやう
 乃婦人をうけ内ふ名をさねあきりて後によね一十麻むりよふ百年此業
 花をさね侍さきとをさの日のちね幕ふ忍抱一とうふ子をさきう。はく
 何やんりいあおと後うこれ業花六十親さううさあねとん一向
 さんねんたり

役者必家の風を思ふ

浪花

女がと第一の祝ひより稽古をせよ、歩みよ、礼法をたのみそ、おじうけ

こそ女形の数ふ入るなりけと死まりぬ又いむしもの、たもと入まんとさやく
 ひくふあーとく桑屋あさや、ぬとくを林に付、荒中へあくけり又桑子お女、
 かけつけぬうつぬ、いとひさとあるどるえ、み荒見せ哉何町何屋の替古場と



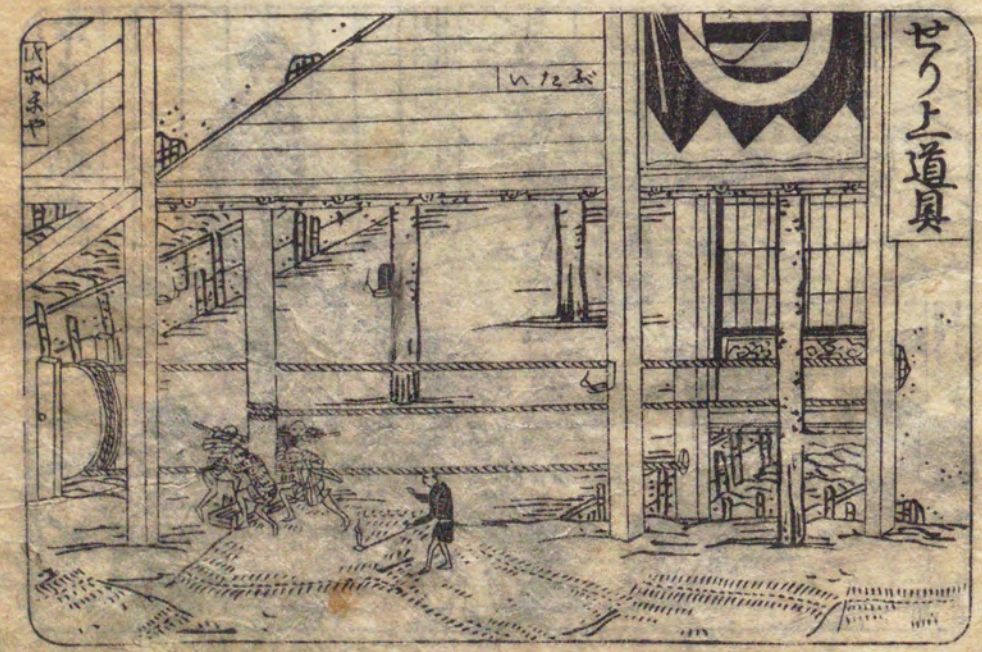
いたぶるのま

二のふちのりやとあ

やべ敷中めつ小

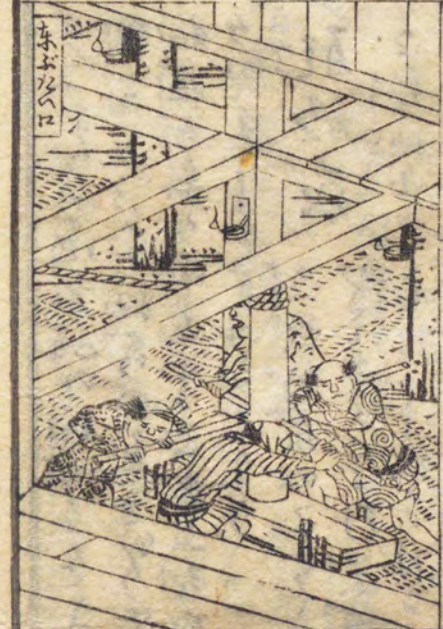
やべ敷

あうせき



いたぶ

せり上道具



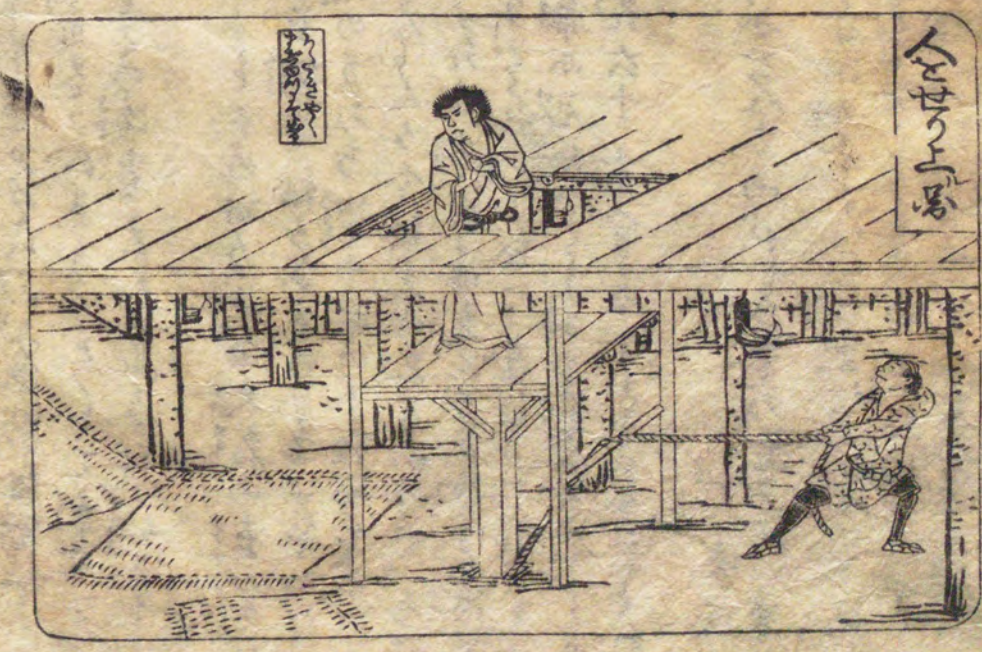
あふたへに

廻り道具
ろくろ
すくろ

用心

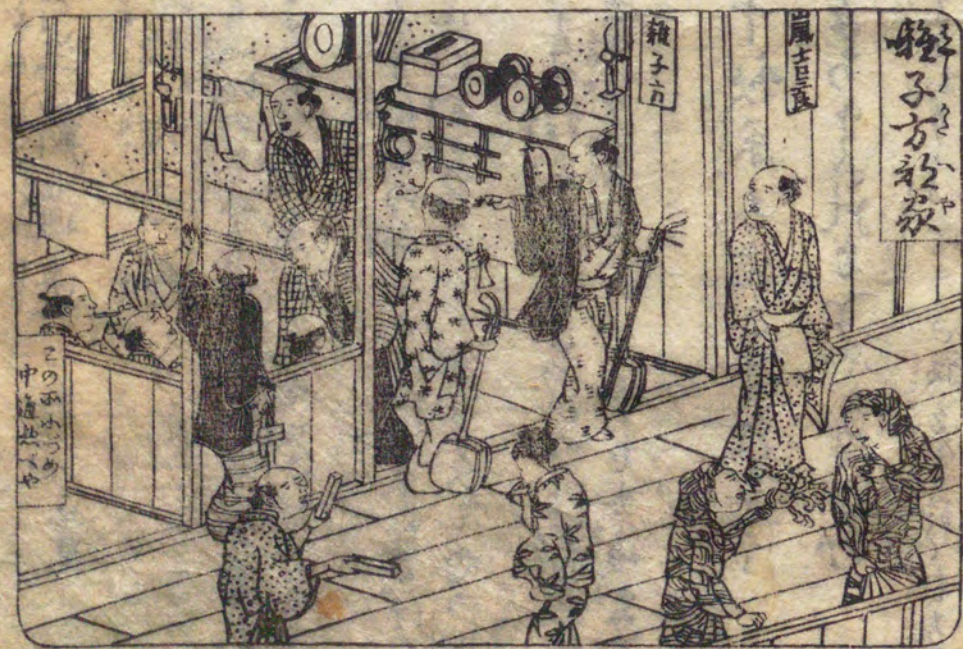
ふろた

一 ひとりの男は、お茶をうけ、お茶をうけ、
 一人を切腹よりいふ男、お茶をうけ、
 一 せうあけ、お茶をうけ、お茶をうけ、
 二 せうあけ、お茶をうけ、お茶をうけ、
 〇 せうあけ、お茶をうけ、お茶をうけ、
 〇 せうあけ、お茶をうけ、お茶をうけ、
 〇 せうあけ、お茶をうけ、お茶をうけ、
 〇 せうあけ、お茶をうけ、お茶をうけ、



うしろのりやとあ

せり上道具



名づく○大坂より明国東屋の兄せ○京宮川町○江戸新道何れも芝居をいふ

陰雨崩巖穴

養生新道邊

青田立見

看破坊主膽

欲預帽子懸

噓子方屋

越後家のあつちうち一切のさやいさあ人々をさあさあ
て幕あけの梅子木とさうにさあさあく病はいつてさあ

二心奴屋

東家山のつちうち噓子方屋の向ふうけけさうけさ
さうけさうけ二心奴屋のさうけさうけさうけさうけさうけさ

當り振舞

二の智りのつちうちつちうちの振舞をさうけさうけさうけ
さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

碎投集

さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

根本通言

根本通言のつちうちつちうちの根本通言をさうけさうけさうけ
さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

振り付

根本通言のつちうちつちうちの振り付をさうけさうけさうけ
さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

役去地歌

根本通言のつちうちつちうちの役去地歌をさうけさうけさうけ
さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

自筆短冊

根本通言のつちうちつちうちの自筆短冊をさうけさうけさうけ
さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

一夜附

根本通言のつちうちつちうちの一夜附をさうけさうけさうけ
さうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさうけさ



當振家之圖

役者中地獄正写

衲子 子一様

あゝ松や見込多

それの色大に

眠獅子一

玉子

あゝ松や見込多

草薙

李冠

カハセ

色もあま

あにしろ

むきの男めり



巴江

月雪の中

結田

う那

市お

夕ねや松

きこ

きこ

美産

きこ

田子



蝶この中に入ろう
 よー野山
 義男
 六月や
 のひる
 鬼丸
 山掛り昆布
 あひ
 新葉山
 家子
 今とあやなれ
 むめや木下等



奥山子一橋
 枯木やうにきつて
 松一本
 東結
 藤引と花も子と家子
 花友子
 家子人妻
 ぬく
 市丸



沢村國太郎

少方くくく田毎水陸

くくく

尾上鯉三郎

あふふ

あふふ

くくくくくくくくくく

芳沢いろは

いろはや
あはれ
ふの上
あはれ

沢村宗十郎

あはれやあはれあはれを

あはれ

清尾乃十郎

奥山

ちふちふや

まゝまゝ一目ふーの山

中山文七

思ふも秋定まほも秋

二山

谷のそと

嵐 右三郎

腰のせむしうみ遠

木子冠
山片り松

藤川友吉

せむしやうの如き人波の春

元友

中山一徳

南校

ほんほりふ
まかりふ

市川男女

物事

うひゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

松本米三郎

いひゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
橋ゝゝゝゝゝゝゝ

嵐 雛助

河列率ゝゝゝゝゝゝゝ
冬杜母 暇物

中村条太郎

五月あやふゆの二ノ常

鯉長

二代
嵐 小六

呉作の種をハ小七
ニムル世の味・常

下
井

由男
子
小七

まろ

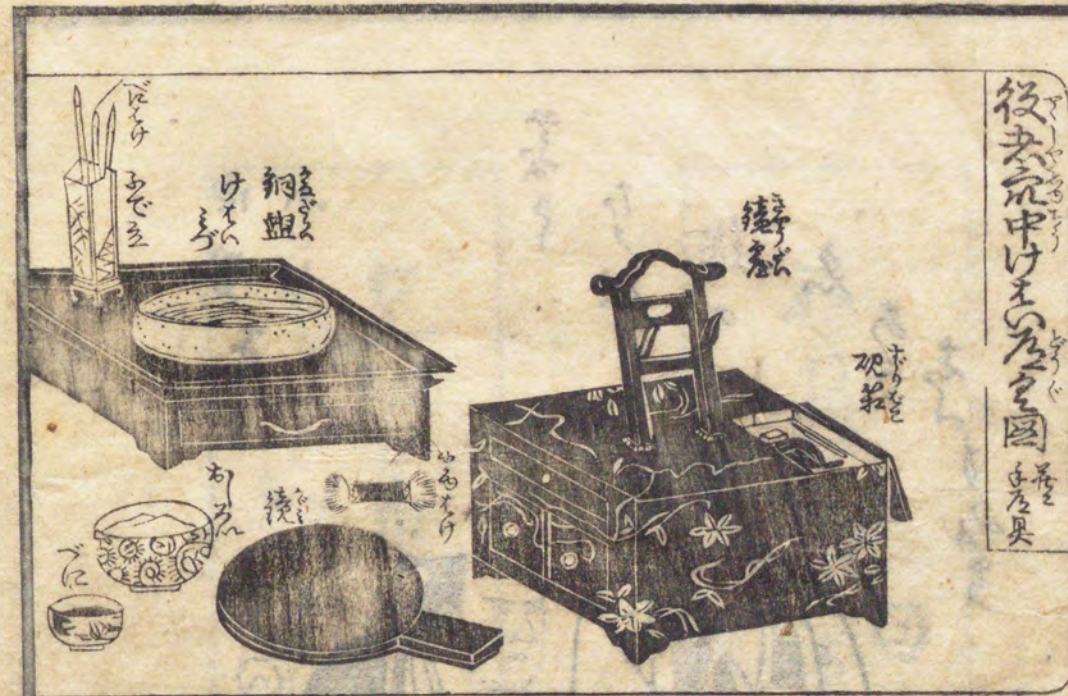
たて

錦の

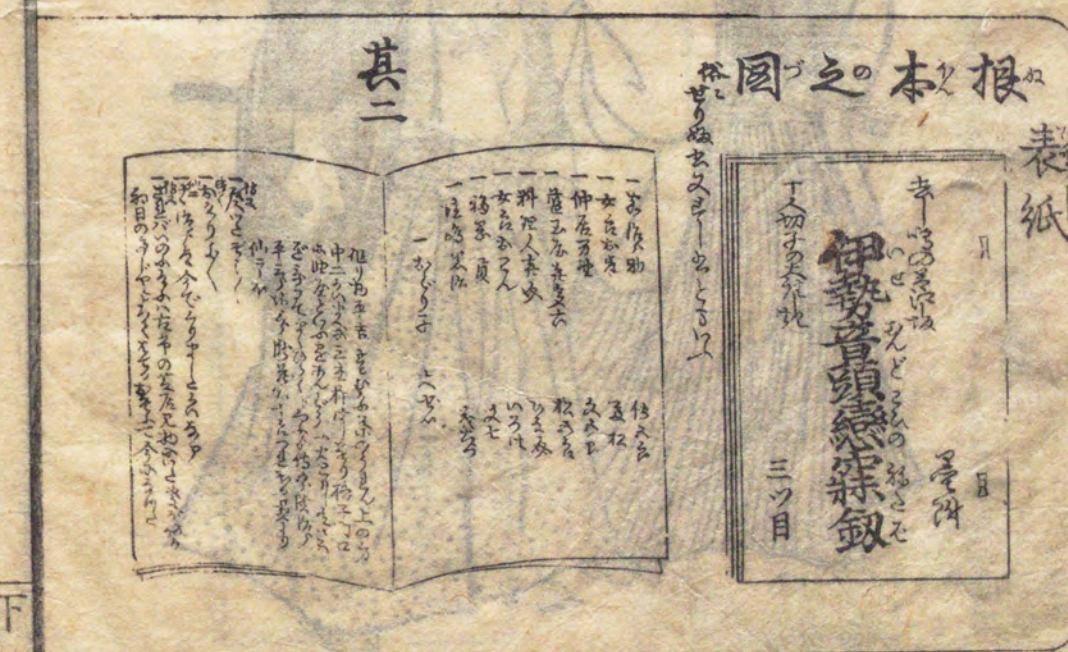
名



あり
あつみち



役丸中けまの屋を圖



表紙

報の之の國

其二

[illegible]

其奧

[illegible]

跋

有るを求むと居る所故に
 する事ふくむ事とあり
 ねねの如くともふまへ
 一事も我もふくむ事
 安んずること今二日の
 事を思ふ所の如き事
 得る事ありと云ふ事

画工

浪義

松好富半之義著

錦糸

劇場樂屋圖會

松好富画

後編

全二冊

繪本兎手柏

同画

全二冊

寛政十二

庚申

年

八文字屋八左衛門

心齋橋通唐物町

大坂書林

河内屋太助

發行

江戸日本橋通貳丁目

須原屋茂兵衛

同 淺草茅町二丁目

須原屋伊八

同 日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 本石町十軒店

英大助

同 芝神明前

岡田屋嘉七

同 明國横山町壹丁目

出雲寺萬治郎

同 下谷御成道

紙屋徳八

同 芝神明前

和泉屋吉兵衛

同 日本橋南壹丁目

須原屋新兵衛

大坂心齋橋通唐物町

河内屋太助

書林

